

第 52 回学生と市長が語る会 = 学生が主役のまちづくり =

日時 平成 26 年 4 月 25 日 13 : 10 ~ 14 : 40

場所 倉敷芸術科学大学 25 号学生控室

要約版

市長

皆さんこんにちは。ちょうど鐘が鳴って午後の授業が始まったという感じで、私も学校に授業に来たみたいな感じがしますが、今日の主役は私ではなくて皆さんだと思います。ここに市民ふれあいトーク・学生と市長が語る会、テーマ「学生が主役のまちづくり」と書いてあります。この市民ふれあいトークというものが、先ずいったい何なのか、初めて聞く人もいらっしゃるかと思うんです。この市民ふれあいトークは、私市長と市民の皆さんがあるテーマについて、若しくは地域のことについて、お互いの意見を言ったり、こういうふうにしたらもっと良くなるんじゃないかと、それが倉敷市のこれからのまちづくりの大きなヒントになっていけばということで、開催をしているものです。

私が市長に就任しましたのが、平成 20 年の 5 月で、今平成 26 年です。1 年間に大体 10 回くらい開催をしております、今日で 52 回目です。3 千何百人くらいの方がこれまでに参加をしてくださっています。学生さんだったり、地域の皆さんだったり、若しくは子育て支援団体の方だったり、色んなテーマで行っているんです。今回はこの倉敷芸術科学大学の学生の皆さんとお話をしたいということでお願いをいたしまして、今日は大変お忙しい中、学長の土井先生をはじめ先生方もご参加くださって、逆に私の方が緊張するんですけども、よろしく願います。

さて、皆さん大体何年生ですか。4 回生・3 回生・2 回生・大学院・留学課程の方ですね。皆さんが勉強されている倉敷芸術科学大学は、平成 7 年に開設されたのは皆さんもよくご存じで、来年度がちょうど 20 周年になると思いますけれど、この倉敷市の連島、水島の地に是非とも大学を誘致したい、それからこの水島コンビナートや文化芸術のまち倉敷に対して、是非貢献をしていただける人たちを地元で育てていただきたいということで、倉敷市、岡山県が加計学園さんの方に切にお願いをしまして、この地に来ていただくことになったのが平成 7 年です。それ以降すでに 6・7 千人くらい卒業生の方を輩出されまして、市内はもとより色んなところで活躍をされていらっしゃる。本当に私たちにとっては大変な大学であります。この市民ふれあいトーク、いつもはどんな感じで進めているかといいますと、最初に私が倉敷市の現状のこととかを話して、それから皆さんと意見交換という形で進んでいくのがいつもの形式です。

皆さんが今住んでいらっしゃるこの倉敷市は、人口が 48 万何千人くらいで、岡山県内では岡山市が 70 万人、倉敷市が 2 番目に大きな都市です。中国地方では倉敷市の人口の上が岡山市、その上が広島市で 120 万人ということで、中国地方でも 3 番目に大きな都市です。倉敷市の次に大きな都市が福山市で、同じ JFE さんがありまして、非常に市としても仲良くしているんですが、福山市が大体 47 万何千人で同じくらいの規模です。私たちのまち、何が有名かといいますと、この大学の名前にもあるように、芸術・科学の面が非常に大変有名な所です。倉敷市には日本で最初にできました近代西洋美術館である大原美術館がありますし、また倉敷市の伝統的建造物群保存地区であります倉敷の美観地区は、全国から大変多くの方が訪れられる、岡山県内でここ 40 年以上くらい観光客の数が、

統計を取って以来、一番多いのが倉敷市の美観地区です。市内では鷲羽山の瀬戸内海国立公園のところも非常に多いわけですが、倉敷市は観光、そして文化のまちとしても非常に有名です。

それから皆さんの大学から眼下に見下ろせます水島コンビナート。この水島コンビナートは岡山県内の製造品出荷額の半分をここで生産をしています。例えば鉄とか、自動車とか、化学製品とか大変多くのもを出荷していますので、岡山県内全体の半分、またこの単一のコンビナートとしては、全国では川崎とか横浜とか千葉とか、順番が毎年少し変わったりするんですけど、全国で大体3本の指に入る大きなコンビナートです。かつ、そういう大きなコンビナートがあるまちに自然景観が豊かな倉敷市の瀬戸内海の国立公園であったり、それから文化と伝統が薫る倉敷の美観地区があったりということで、非常に色々な特色を持っているまちというのが、私たちの倉敷市のまちだと思います。

倉敷市には日本一とか、世界一のものがたくさんあるんですけども、例えば日本一のものといえば、水島コンビナートのJFEさんが造っている鉄の生産量は福山と合せて日本で一番多くの、事業所としては一番多くの鉄をつくっています。それから例えば、児島の繊維産業、ここも大阪とこの倉敷とで1番、2番を毎年争っているんですが、繊維のまち児島、今皆さん、大学生ですけど中学、高校、また小学校の時にセーラー服とか学生服を着ていたと思います。そのセーラー服や学生服の日本の大体7割から8割ぐらいは全部児島の地区で作られています。2月、3月になると大変な状況でこちらから全国に対してセーラー服や学生服を出荷したり、それから最近では、私も今日、上着だけ着てきたんですけども、ジーンズのまちとして非常に有名です。テレビを見た方は最近、児島のジーンズというのは非常に高級品で、またおしゃれなものだということで、よくテレビで見ることもあると思うんですが、繊維のまち、ジーンズのまちとして有名だったり、また、畳べり、実家とかに和室があると思うんですけど、畳があって畳のふちがあります。以前はこの畳の表のところも岡山県内ではイ草を大変多く作っていたので、非常に多くの生産高だったんですが、現在はこの畳べりのところについては日本で約8割を倉敷市で作っています。それから農業の面では、マスカットオブアレキサンドリアという緑色のちょっと高いブドウがあります。これは加温マスカットといいまして、ハウス栽培で行うマスカットの内約7割、8割ぐらいは倉敷市の船穂町というところで作られていたりということで、農業とか文化、産業、観光とか色々な面で倉敷市は1番のものがあったり、特色があるものだったりしています。玉島に玉島ハーバーアイランドという人工島があります。行ったことが多分あまりないんじゃないかと思うんですが、そこでは日本の船に使うプロペラが、小さいプロペラから巨大な船のタンカーのプロペラまであるんですけども、国内のプロペラのシェアの約60パーセント位を玉島ハーバーアイランドの会社で造っていたり。それからハーバーアイランドでは最近、去年から操業を始めましたが、飛行機のチタンで造った非常に頑強な部材があるんですけど、それを、非常に大きな部材なんですけど、それを造るのには世界で一番大きな、しかも最新鋭の機材を持っているということで有名です。ですので、この倉敷市では農業や漁業から芸術、文化、それから工業、産業と本当に色々な特色があるのがこの私たちのまち倉敷だと思います。

さて、もう私が話すのをやめようと思いますが、皆さんが住んでいらっしゃる、通っていらっしゃるこの倉敷というまちは、実は昭和42年に大きな3つの市が合併をできました。元々の倉敷市というところ、それから元々の児島、ジーンズ、繊維のまち児島、

それから元々の玉島市というところが合併をして、ちょうどその頃にはこの水島コンピナートがだんだん出来上がってきて、隆盛を誇っていた時代でしたので、この水島の発展を機に一緒になろうということで、一つの大きな市になったのがその頃です。それ以来倉敷市は、おかげさまで順調に発展してきているというまちになっています。

倉敷市内に11の大学があります。玉島には作陽学園さん、それから職業能力開発大学校という国の機関があります。この連島には芸科大学、有城の地には原田学園さんといひまして岡山学院大学、短期大学、保育とかの面で非常に有名です。それから倉敷市の中庄の松島の近くには川崎学園さん、医科大学をはじめとして、医療、福祉とか、健康関係の大学がありということで、倉敷市には色んな大学があり、学生さんも非常に多いです。倉敷市の人口が48万何千人と言いましたけれども、大学の学生さんが約1万人弱ぐらい倉敷市にはいらっしやいます。それからもう一つ言いますと、今日は留学生の方もいらっしやるといふことで、外国人の方が大体5000人ぐらい倉敷市内には住んでいらっしやいます。

では、「学生が主役のまちづくり」、皆さん日ごろから大学の授業が、非常に大変で忙しいことと思いますけれども、私たちが学生さんたち、また芸術科学大学に非常に期待していることは、皆さんがこれからの健康長寿社会の中で、社会を担っていく大きな原動力、エンジンであることは間違いなくて、皆さんが若者であるということ期待をされているわけです。その若者の皆さんがこの大学という場を大きなきっかけの一つとして、そしてこの場所に連島、水島、それからせっきく倉敷市という場にいらっしやることによって、大学の4年間、若しくは大学院の期間に何か自分がやってやろうとか、色々部活動とかサークル活動とか、活動をされていると思うんです。そういうことをこの50万人の内の1万人の方が学生さんですから、私たちはまちの活性化のことについて皆さんたちの力を非常に期待しています。クラスの中でゼミの活動で学校から外に出て活動されたりすることもあると思うんですけど、その時に地域の方たちと一緒に活動することによって、皆さんも得るものがたくさんあると思いますが、地域の方も皆さんが地域で活動してくれるということを大変うれしく思っています。例えば芸術科学大学らしい芸術、デザインの面とか、それから子育てに関しても子供さんたちが喜んでくれるようなものを一緒に作ったりということをしてくださっていることを聞いておりますが、今日はその関係の方もいらっしやるんじゃないかと思えます。自分がこういう気持ちで地域活動とか、ゼミの課外活動と一緒に参加をしているんだということなんかも、教えてもらえると大変ありがたいです。私が皆さんにお聞きしたい、是非意見交換をしたいのは、せっきく皆さんがこの4年間なりの期間をこの倉敷市というところにいらっしやるので、もちろん大学の勉強は重要ですけども、それだけではなくて、この倉敷市でしかできないようなことを是非地域の方にも入ってやっていただきたいと思っているところです。そういうことについて、教えていただければありがたいと思えますし、そういうことばかりじゃなくて、倉敷市長に聞いてみたいこととか、倉敷のまちがどうなのかなとか、自分の地元のところと比べて倉敷はこういうところは良いんだけど、こういうところは今一つだなということをお教えしてもらったら、これからのまちづくりにも大変参考になるかと思っておりますので、よろしく願いできればと思います。

参加者 A さん

芸術学部デザイン学科の4年生です。前のふれあいトークに一度参加させてもらったんです。今、学科全体としてですが、観光課とよく付き合いをさせてもらっていて、今年もその活動をやっています。今年4年生ということで、卒業制作でその観光をやろうと思っ
ていまして、具体的には児島ホテルの方とも連携させてもらいまして、児島ホテル周辺にも町並み保存地区あたりを自分は盛り上げたいなと思っています。その時に色々調査をする時に市長の方にも色々お話を伺いたいなと思う面もありますので、市長さんの方に直接問い合わせるブログとかなんとかあったりしますか。

市長

市役所の方で情報発信課とか、今のような内容であれば市民広聴課というところのホームページがあるんですけど、そここのところに意見とか、聞きたいこととかということで、メールを出していただければ。もちろん今聞いてもらってもいいですよ。それで全部が全部答えられるわけではありませんけど。

参加者 A さん

市長が一人の人として倉敷市のここを知ってもらいたいとか、ここが楽しいとか思う場所、物があれば、一つだけPRしていただけると嬉しいです。

市長

ちなみにデザイン学科として、観光の面で自分がこういうことを一緒にやってみたいというのが、さっき瀬戸内児島ホテルのことを言ってくれたんですけど、どういう面で自分のゼミの活動とかで、まちづくりとか一緒にやってみたいと思っているんですか。

参加者 A さん

自分が研究しているのは、人間中心設計というやつで、人、個人にあったデザインを提案するといったサービスのデザインです。デザインと聞くとどちらかと言うと絵のデザインとか、ポスターとかの方が思い浮かばれると思うんです。自分がやっているのは少し観光学科に近い部分がありまして、観光学科がやっているシステム、お客様をどう呼び込むのかとか、そういうことをやって、プラスでデザインをしている。具体的にはプロダクト、どういったパンフを作るかとかやっています。児島ホテルの時にやったのは、実際は客室のリフォームのデザインで倉敷とは関係なかったんですが、それを継続して、結び付けようと考えています。

市長

人間中心設計。初めて聞いた単語でしたけれど、芸科大では通常の単語なのかな。でも大体わかりました。質問のどこが知ってもらいたいかということですけど、今日、もしかしたら、私がこれから言うことに関係してくれた方もいらっしゃるかと思うんですが、例えば倉敷市は去年から「記念日を過ごすまち」ということで、学生さんたちも一緒になって参加をしてくださって取り組んでいるものがあります。それは今言ってくれたように、単にパッと観光に来るといっただけじゃなくて、われわれ観光地としてはそこに何回も来て

もりたいのです。そのためには、見てよかったなと思うだけじゃなくて、自分たちとしては良いまちだと思っているんで、ここで何かで過ごしてもらって。お父さんとかお母さんとかに記念日を過ごしてもらって、また記念日になったら倉敷へ一緒に行ってみようかと思ってもらいたいということがあって、始めることになり、非常に好評です。

そういうことを通じて、ちょっと感じることは、今の観光とか人々が色々な所へ行く時に、観光パンフレットを見てこられるというのも勿論あると思うんですが、その地の背景とか歴史とか、やはりストーリーを求めて皆さん来られているのかなと思うことが非常によくあります。例えば、その中で言うと、倉敷市には大きな高梁川が流れているんですが、その川の流域に総社市とか高梁市とか新見市とかだんだん川上の方に行って来たら、川の源流がある。倉敷市はもともと、この芸科大の山は昔から地面だったんですけど、ほとんど見える所は全部海面だったんです。そこが高梁川とか上流からの色々な土とかが流れてきて、まず地面になって、それからここで物を作り始めて、上流との色々な交易とかを通じて、私たちのまちが発展してきたという歴史があるんです。我々が最近考えているのは、もちろん倉敷市を売り出すのは非常に重要なことだけれども、何で今の倉敷市があるのか、上流からの色々な今までの恵みがあるんだなということも一緒に発信をしたいなと。そういうことを考えたりしています。それは昔から高梁川流域連盟という高梁川の周りの10個の市町村で成り立っている連合体というか、市町村があって非常に仲良くしているんだけれど、そういう人たちと話し合ったりとかがしています。

参加者 A さん

どちらかというところ、既存の観光地より知られないところをもう少しアピールしていきたいという形ですか。

市長

そうですね。知られているところは、もちろんアピールをして継続的に来てもらいたい。そこも良くするんだけど、それだけじゃなくて、これまであまり焦点が当たってないけれど、深い歴史があるとか、何でこの地が栄えたのかという原点がそこにあるとか、そういうことに焦点を当てたいなと思います。ありがとうございました。

参加者 B さん

芸術学部デザイン学科の4年生です。先ほどのお話でもあったんですが、倉敷市が昨年からの記念日の聖地ということで、制定されたということで、そのことについて質問させていただきたいんですけど、私もさっきの方と同じデザイン学科所属なんですが、記念日の事業に関して、昨年記念日レターのデザインを採用させていただきまして、今年もそのプロジェクトを引き続き、私たちが新しいデザインの製作に取り組んでいるんですけど、記念日を過ごすまち倉敷ということで、プロジェクトをこれからドンドン発展させていき、学生の立場からも参加して貢献させていただきたいなと思っているんですが、その記念日レターを通して更に記念日を過ごす倉敷というものをどんなふうに展開させていきたいと考えていらっしゃるのか、是非お願いします。

市長

これの中のどれをデザインしてくれたんですか。下津井のタコとか、連島のレンコンとかが書いてある。ありがとうございます。記念日を過ごすまち倉敷で、記念日レターを芸科大さんとデザイン学科の皆さんと一緒に開発することができて、倉敷市として大変うれしく思っています。その時にこの記念日のレターは、倉敷の美観地区の観光案内所の方で売ってもらったり、各旅館とかに泊まった時に旅館の方でこれを、また1年後にお母さんに今日のことをメモリアルにするために出してくださいとかということに結構使われていると思うんです。これからの発展という面でどういう期待をしますかという質問ですよ。

例えば、皆さんから色々伺っているのは、非常にかわいいデザインが多いというのを聞いているのと、それからこの中に、これには詳しく下津井のタコですとか、玉島のダルマですとか書いてなかったりしていますよね。ですから皆さん何でこの絵が描いてあるんですかというは聞かれたりします。それは倉敷児島は漁業のまちだったり、昔から繊維とか和紙の産業が盛んでダルマとかの産業が盛んだとか、そういう背景が、なぜそれをやっているのかとか、どういう形ができるのか分からないけれど付け加えてもらえたら良いんじゃないかなと思うのと。ちょっと聞いたのははがきの形が必ず四角じゃなくても、郵便でいけると思うんで、面白い形とかがあったらいいんじゃないかと聞いたことがあります。あんまりアイデアがなくて済みません。これからもよろしくお願いします。

参加者Cさん

芸術学部デザイン学科4回生です。私もBさんと同じように、デザインを採用させていただいたんですけど、記念日の聖地のPR活動に関してのことです。ニュースで2、3年後だったと思うんですけど、JR主催の観光キャンペーンに、岡山が選ばれたということを知りました。それに関しての記念日のPRの仕方というのを、全国的に有名になるチャンスだと思うので、ここでどういったアプローチをしていくのかなというのを伺いたいと思います。

市長

JRのデスティネーションキャンペーンというのは、確か平成27年だったか28年だったか忘れたんですけど、倉敷、岡山を舞台にやることが決まりまして、倉敷市としても勿論それに参加をするということになります。またJRさんとしても、これまでも非常に大きな観光地として実績が上がっている倉敷市を、デスティネーションキャンペーンの中に普通だったら組み込んでくれると思うんですけど、倉敷市としては黙って待っているだけではなくて、以前にもJRと一緒に組んだキャンペーンをやっていますが、今回にあたっては以前と比べて、記念日のレターとか、記念日の聖地ということを取組んでいますとか、それから高梁川流域と一緒に特産品の開発をしていますとか、そういうことをしっかり売り込みをして、デスティネーションキャンペーンの中に取り込んでもらえるようにしたいなと思っています。何かアイデアはありますか。急に言われても困りますよね。とにかく、さっきBさんも言うてくれましたけれども、記念日レターも含めた記念日の聖地の倉敷の活動というのを、JRの方に強力に言おうと思っていますので、この倉敷の美観地区だけではなくて、倉敷は他の観光地と違って、観るだけじゃなくて、その場所で思い出を新たに作る場所だということをしっかり、観光の付加価値というようなものをよりたく

さんのつけたものにできればと思っています。

参加者Dさん

芸術学部メディア映像学科のメディア情報コース4年生です。倉敷市さんとはゼミの方で、倉敷市の文化財アプリというものを協力して作っていたんです。その節はお世話になったんですけど、私たちのゼミとして質問があります。全国ではオープンデータとして、市営バスとか公衆トイレとかを情報公開することによって、市民目線でユニークなアプリがたくさん作られているということがあるんです。その中で、倉敷市さんとしてオープンデータの今後の予定や取組みとかがあれば、ぜひ聞かせていただきたいと思っています。

市長

はい、ありがとうございました。オープンデータといっても今一つわからない方もおられると思いますので、もうちょっと説明していただけますか？

参加者Dさん

オープンデータは、今のところで言いますと、岡山のどこか一つ提供していたんですけど、要は、公衆トイレの場所とかをネット上にオープンな情報として公開することで、これを自由に扱うことができるんです、誰でも。これを使って我々市民が新しいアプリだとか、そういう情報をもとに。今ではARとかを使って、カメラをセッティングすると犬が出てくるんです。そうして犬を追っていくと、公衆トイレの位置にたどり着けると。そういうユニークなものがどんどん登場しているんです。倉敷市さんがオープンデータを公開することによって、我々のアプリの制作にも面白いことがでてくるんじゃないかと思って。オープンデータを公開する予定や取組みがあったら教えていただきたいと思っています。

市長

今のお話は、いろんな学生さんのゼミや研究とかで、色々なものを作るときに、そういう公共の情報とかを。オープンデータを作るときに、どういった形式で作るのかな？

参加者Dさん

形式ですか。そうですね、ネットの中で、サイト名は忘れたんですが、公開されているところがあるんです。その部分に倉敷市さんが参加される形で上げていただけるんじゃないかと思っています。

市長

なるほど。どの形式を使うかということで、その分だけ参加をするかどうかというのは何とも今言えないんですが、今のところは、特に予定は立っていないんですけど。

今言われたような、例えば文化財の調査とか、観光とかの、観光地で犬についていったら観光地にたどり着けるとかというのにも使えると思うし。それから、私は、今後こういう可能性があればいいなと思うんだけど、例えば防災とかで非常に今後重要になるんじゃないかと思っています。それで、オープンデータに倉敷市が参加をするかどうか分からないんですが、倉敷市がいろんな公共の情報を外に出すときに非常に最近気にしているのが、

やっぱりこれから早ければ30年以内に何十%の確率で南海トラフの地震が起こると言われているじゃないですか。今日は四国出身の皆さんもいらっしゃると思うんですけど、倉敷市でも被害が少ないとはいえ、震度6だったり、津波も3mぐらい来るということで、みなさん近くのところ、避難場所はどこへ行ったらいいのかということに、非常に心配をしているので、そういうものとかに公共データをみんなが活用してくれて、いろんなアプリとかを作ってもらったりすると、すごく役に立つのではないかなと。まだそういうのはないんじゃないかと思うんですけど。防災面というのは、今市民の関心も高いし、国からの関心もすごく高いと思います。

参加者Dさん

追加質問になるんですけど、これは私の質問としまして。まだまだ首都の東京が中心で、福岡とかもちょっと上がってきているんですけど、アプリコンテストとか行われているんです。もし倉敷市さんがアプリやこういったイベントや講演などが開かれる予定がありましたら教えてほしいです。

市長

倉敷市でのアプリとかネット環境のコンテストですか。今のところ予定はされていないですが、大々的なコンテストとかではなくて、今言った防災のものを一緒に作りませんかとか、これからは、市から芸科大さんをはじめとして学生さんとか企業のみなさんとかいらっしゃるんで、市と市民の皆さんと協働で、公共のために役に立つようなものを作っていくというような仕組みはやっていきたいなと思っています。これまでだったら、市がかっちり決めて、市が作り出したという時代から、市と市民の皆さんと一緒に使って使いやすいものを作るというような事業を一部始めているんですけど、まだそういうアプリとかの世界ではやってないんです。

メディア学科の皆さんには文化財の方でもありがとうございました。倉敷市の100ぐらいの公開されている文化財のうち、60ぐらいをアプリで作ってもらって、色々それをみなさんが使って行かれていると伺っております。ありがとうございます。

参加者Eさん

私たち動物生命科学科は、現在かけ猫活動という、大学内の猫に決められた時間にえさを与えたり、むやみに猫が増えたりしないように去勢手術を行ったりといった活動をするので、大学内の猫の正常化を図るという活動をしています。

倉敷には野良猫や、家猫ですけど外に自由に出られる猫が多いように感じるんです。私としては猫が好きなので、ちょっと外で歩いていたらかわいいと思うんですけど、やっぱり苦手な方たちもいらっしゃると思うので、そのあたりで、問題や苦情とかも起こりうると思うんです。倉敷市内で問題や苦情があったかということと、それに対して改善策とかを考えられたことがありましたら教えていただきたいなと思います。

市長

はい、ありがとうございます。今回事前の申込書の方で、かけ猫のことを書いてくださった方もたくさんいらっしゃったので、少しは調べてきたのですが、全部わかっているわ

けじゃないです。かけ猫活動は、芸科大ではみなさん、いつからしているんですか？

参加者 E さん

始まったのは、2年ぐらい前です。

そのかけ猫の「かけ」は、加計学園の「かけ」と、架け橋の「かけ」を掛け合わせて、ということ。

市長

その「かけ」なんですね。なるほど。皆さん知っていらっしゃるかもしれないけれど、かけ猫活動の目的をもう一回教えてもらっていいですか？

参加者 E さん

かけ猫活動の目的については、分かりにくいところもあるけど、私も最初のころは、理解できない部分もあったんです。猫が好きな人もいれば苦手な人もいる。そういう人たちも問題なく、一番の目的は正常化ということで、猫が、何もすることなく増えてしまうと、環境面でもよくないことが増えてしまうので、そのあたりも私たち動物に詳しい動物生命科学科の者が管理するというので、決められた時間にえさをやることで、苦手な人が猫に遭遇する時間を減らすことや、新しい猫が増えることで、その猫たちがまたえさを求めてさまよい、ふらふらすることがないように、避妊・去勢手術をすること、もっと監視するというわけではないですけど、そういう活動です。

市長

大体分かったような感じがします。つまり皆さん、もちろん猫のことは好きで、でも猫が嫌いな人もいたりとか、かまれたり引っかかれたりする人もいるんで、どんどん増えるのもどうかなということで、猫が適正に学内や地域にいるのがいいと。そのためにはどうすればいいかと考え、えさを定期的にあげて数を数えたり、一匹ずつ管理したりしている？

参加者 E さん

一匹ずつ名前を決めてはいます。今学内で21匹います。

市長

21匹ですか。それでご質問ですけど、猫についての苦情が市に対してどんな感じなのか、ということですけど。

1年に大体200件ぐらい市の保健所に苦情があります。多くはやはり猫の放し飼いというか、首輪を犬みたいにつけるわけにもいかないの、猫がほかの家から来て、自分のところのごみ箱を荒らして困るとか。猫が好きで何匹も飼ってる人がいて、その人が近くに来る猫にえさをあげて、どんどん猫が集まってきて、周りの衛生状態が悪くなって、猫が嫌いな人もたくさんいるしということで非常に困っているとか、ということはよく聞きます。保健所に聞いたところ、猫を好きでかつ適正に管理してくれている人がいるということは重要です。非常に苦情が出るというのは、猫が好きで、えさをどんどんあげて、それで別に管理はしなくて、フンとかの処理もしないで衛生状態も悪くなるということが一

番悪いので、本当だったらえさをあげっぱなしにしないで、猫好きの人は、この学校みたいにちゃんと分かっていて、それで必要な対応をしてあげるとというのが、管理じゃないですけど、そういうことをちゃんとしてもらうのが本当にいいし、猫にとってもいいはずだと言っていました。猫についての質問、他にはないでしょうか？

参加者Fさん

動物生命科3年の者です。私たちのかけ猫は1年から4年まで分担して、管理と募金と、芸術の人からの支援もあって成り立っていて、先ほど先輩が言われたように、色々活動しています。そこで、倉敷市で殺処分されている猫について、どれくらいなのか聞きたいんですけど。

市長

聞かれるんじゃないかと思って。一年間に殺処分される猫の数は、平成14年の統計は一年間に1,800匹殺処分されていました。今現在は590匹ぐらい、3分の1にはなってきたんですが、まだもちろん多いとは思いますが。でも、譲渡される猫も150匹ぐらいはいるんですけど、なぜこれだけ殺処分されなければならない状況になるかという、つまり猫を自分が飼えないとか道に捨てられている子猫を保健所に持ってきたりしてくれます。その数がもちろん殺処分より1.5倍ぐらい多いわけなんです。以前はもっとも多かったんです。第一義的には飼い主の人がちゃんと自分で飼えなくて、それから手術とかもしてなくて、どんどん子供とかが増えちゃったら、家の方では何匹までしか飼えないんで、公園とかに箱に入れて捨てたりとか、毛布にくるんで捨てたりとか。それは、自分の家で飼っていたんだけど、どうしようもなくなって捨てました、ということの現れだと思うんですけど、本当だったら自分の家でちゃんと親猫の管理をしてくださってれば、きっと捨てられることもなかっただろうし。拾った人が自分で飼えるところだったら引き取ってくださる場合もあるんですけど、なかなか5匹も飼えないんで、保健所に持ってくる。保健所が引き取るということになって、なるべく譲渡先を探すんですけど、そんなに全員が全員見つかるわけでもない、ということになると、ある程度の頭数を処分しないといけない状況になるという流れになっているみたいです。でも、10年ぐらい前と比べては、数は3分の1ぐらいになってきている。それは啓発活動とかで、避妊手術をしてくださいとお願いして、理解が深まってきていると思うんですけど、やっぱりまだ悲しいかな、頭数は多いのが現実だと思いますし、犬と比べると引き取り手が少ないというのも事実みたいで、猫は150匹ぐらい引き取ってもらえるけど、犬は200匹以上ぐらい引き取ってもらっているようで、猫の方が難しい状況にあるというのも事実です。これをどうやって減らせばいいのかと皆も考えてくれて、かけ猫活動をやってくれていると思うんですけど、何かいい知恵はないでしょうか？保健所もなるべく少なくできればという思いで、家で飼えないけれども保健所に持ってくる人に色々指導したりして、引き続きこの子が命を全うするまでは飼ってくださいと一生懸命お願いしていますが、どうしても家では飼えないと言われたら引き取るしかないのが現実です。皆さんの活動で、動物の命の大切さというのを広めていただければありがたいと思っています。

参加者 G さん

観光学科 3 年生，交換留学生です。市内で無料の W i - F i を設置することが可能ですか？

市長

市内で無料の W i - F i を設置することが可能か，ということですが，今のところはいろいろ検討しているんですけど，まだ，市の方で設置するということにはなっていません。なぜかというと，今携帯とかスマホとかの環境が整ってきているので。今から 5 年ぐらい前には，W i - F i がなくなかなかパソコンがつかないということがよく言われたんですけど，最近は W i - F i をつなげてもらいたいという要望は少なくはなってきたんですが，一方で京都とか観光地で W i - F i を繋げていることも聞いていまして，今調べている状況です。W i - F i については，どう思いますか？

参加者 G さん

例えば台北市は，外国人はスマートフォンを台湾へ持ってきてから，ネットを申請しなくても W i - F i がつながってそのままネットが使えます。それは観光とか市内の宣伝とかにとっても役に立つと思います。

市長

なるほど。出身は台湾のどこですか？

参加者 G

台湾の台北市です。

市長

台北市，首都ですね。分かりました。台湾とはね，岡山は飛行機の直行便も去年から繋がって，今観光客の方が非常に増えてきているので，倉敷市も台湾の状況にいろいろ学ばないといけないと思っていますので，すぐできるかどうかはわかりませんが，いろいろ研究したいと思います。

参加者 H さん

私は今，観光学科の 2 年生です。韓国から来ました。私は，世界と通じる倉敷というタイトルで言いたいんですけど，さっき言ったように，市内の W i - F i 設置が早くできたらいいなと思います。

それと，日本に来て韓国人として，大阪に観光に行ってきた，という人は結構多いんですけど，倉敷に行ってきたという人は少ないです。倉敷市が韓国で広まっていないので，韓国の旅行社などに倉敷をもっと P R した方がいいと思います。韓国人に教えることを早くしないといけないと思います。

あと，倉敷駅で写真の展示会をして，外国人が来たら写真で倉敷の美観地区とかの歴史的なものを見せて，日本にはそういうきれいな歴史的なものがあると思うので，そういうことをしたらいいと思います。韓国のソウル駅では，外国人が多く来て，写真の展示会を

見て、韓国の伝統的なものや駅、文化を見て、写真を撮ったりして、韓国のことを知っていると思います。倉敷でもそういう展示会とかを時々するのがいいと思います。

市長

韓国では、大きな駅とかで、街の昔の写真とかを展示して、外国人観光客が見て、いいなということを知るんですね。なるほど。ありがとうございます。倉敷市では、駅ではまだやってないですけど、美観地区の入り口にある倉敷物語館という市の施設で、倉敷の昔の写真展をやったり、倉敷駅から美観地区に来る商店街のところに、写真ではないんですが、大原美術館の絵のコンパクトサイズのものを置いてもらって、美術館の街だということを商店街の中で見えるようにしたりということをしています。写真を展示するというのは非常にいいアイデアだと思います。あと、韓国で、日本の観光地でどこが有名ですか？

参加者 H さん

韓国では今、大阪の道頓堀や心齋橋、東京のお台場が一番有名なところです。お台場は未来都市的な感じですし。

市長

韓国の人は、やっぱり賑やかなところが好きなのかな？道頓堀とか心齋橋とか、すごく街が賑やかですよ。ちなみに台湾の人は、日本のどういうところが有名ですか。

参加者 G さん

東京や大阪、にぎやかな所が一番有名です。そして沖縄も有名です。

参加者 I さん

観光学科の留学生です。よろしくお願ひします。倉敷の観光客数は毎年増えているという話を聞いたんですけども。私は自分自身も外国人で留学生ですけども、観光学科の立場で考えて、せっかく日本に来て、外国人に対して観光だけでなく、外国人もできるイベントとか、着物も無料体験できるような体験とかありますか。

市長

ありがとうございます。着物の無料体験はないですが、そんなに高くない有料の体験があります。例えば、京都とか金沢のことを研究して、倉敷の民間の会社の人が始めてくれたんですけど、確か3千円から4千円位で、1日着物を借りて、着付けをしてくれて、観光してまた帰ってくるというのをやっています。外国の人に非常に人気だそうです。自分の着物を持っている人が、持ってきて着せてくれるサービスもあって、それだともうちちょっと安いです。なかなか一人で着物を着るのは難しいので、そういうサービスもあります。着物で歩く倉敷の美観地区も非常に良いと外国の方は思ってくださいと思っています。着物を着て歩いたら、やっぱり良いと思いますか。

参加者 I さん

はい。写真を撮るだけではなくて、何かして体験すると、後で国に帰ってからも、記憶

としてすばらしいんじゃないかと思っています。

市長

わかりました。そういうところもPRするようにします。確かにそうですね。今日、外国の留学生の方はどれくらいいらっしゃいますか。(挙手)ありがとうございます。

この前、フランスから観光客の方が来てくれた時に、その人たちは2日間京都に行って、そのあと倉敷に来てくれたんですけれど。京都と倉敷の違いで、倉敷が良いと言ってくれたのは、京都は例えば、清水寺とか金閣寺とか銀閣寺とか、すごく大きな有名な観光地があって、そこに行ってみて、お寺を拝んだりするのがすごく良かったんですけども、でも倉敷に来たら美観地区の本町通りとか、白壁の通りとか、非常にこじんまりとしているけれど、昔の街並みがあるまま残っているのが、外国人としては昔の日本がきっと京都にあると思ってきたんですけど、京都にはそんなになかったとその人は言われました。勿論、あるとは思いますが。でもメジャーな観光地ではないけれど倉敷に来たら、地域が固まっているので、倉敷は自分が思っていた日本の昔からの風景だと言ってきて、とてもうれしかったんです。そういうところを伸ばしていきたいなと思っています。頑張ります。

参加者 A さん

さっきの着物の話で、昨年やっていたプロジェクトの話を出したので、ちょっと聞こうと思います。フラッシュモブっていうのをご存じですか。

市長

聞いたことはあるけど、どんなやつでしたかね。

参加者 A さん

普通に観光に行っていたら、観光地で急にゲリライベントが起こるというものです。

市長

わかりました。そこへ突然みんなが集まって、何か音楽を演奏しましょうとか。

参加者 A さん

そういう感じのものです。昨年、倉敷の観光課へ提案したのですが。ちょっと倉敷美観地区で着物で歩いていたら、急にチャンバラが始まったりとか、そういったのをする場合、現実的にできると思いますか。

市長

呼びかけ方にもよりますが。町の中で突然、演奏が始まったりしているのは、テレビで見たことがあります。そういうのがあったら、倉敷の街並みにあったものが何かできれば。できればチャンバラとかじゃなく。結構多くは大都会でやっている感じ。やっている人たちもある程度、日ごろから、呼びかけをネットとかSNSとか皆でしている人が多いと思いますので、急にやって3人しか集まらなかったというのも一番嫌だと思ってやっていると思うので、ある程度の傾向をみてやっている人が多いとは思いますが。

参加者 A さん

もう一つ、大学って色々な地域から集まってきている学生も多いし、地域の方もよく来られる場所だと思いますが、大学のシステムの的に詳しくないんで、大学の学園祭に地域の事業者も参加してもらったりとかしたいなと思うけれど、学校から呼びかけるのはなかなか難しく、お金を出して呼ぶというのはできないんです。だから、市の方で事業者や活動しているグループなんかには有志という形で来てもいいよという人を募れるような掲示板とかがあったりとか、そういったものを作ってもらえたりとかできますか。

市長

今のポイントは非常に良いんですけど、その一方向だけではちょっとまだ。Aさんが言ったのは、学校に地元の人とか企業に来てもらいたいというお話で、地元の人たちは地元で学生の皆さんが、もっと町に出てきてもらいたいとすごく思っているところがあるんですよ。やはり大学というのは地域の宝だし、皆さんは主に授業とかがすごく大切なんで、地域の行事に参加したりというのは難しいかもしれませんが、でも、水島の祭りに参加してくれるサークルとか、学生の皆さんがいたりとか、それから確か、水島の商店街で水島祭りの時にゼミ単位で空き店舗を地域の事業者の人が貸してくれて、そこで自分たちで作った、例えばガラスの作品を販売したりして、町の人たちとの交流を図ったりしてしてくれるということもあって、町の皆さんはすごく喜んでいました。

だから、これは倉敷だけのことではないんですが、町の活性化、学校づくりとまちづくりと両方ですけれども、できれば私の希望としては、学生さんたちにもっともっと、当然ゼミの先生の方針とかもあるので、先生たちが色々な研究のフィールドを選ぶときに、じゃあ地元の地域にしましょう、若しくは農業のことも一緒に研究したいんで玉島にしましょうとか、そういうふうにやってもらいたいなと思っていて。実はさっき窓口の話をしたんですけど、倉敷市役所のほうに大学連携の担当部署があるんです。そこと倉敷市内の11の大学のそれぞれの大学連携の担当の方がいらっやって、定期的に集まって会議をして、お互いにどういうことができるのかを話したり、市の方から投げかけをして学校の方で具体的に、デザインをしてくださいとか、個別にお願いすることもあるんですけど、一緒にやろうとういうことなんかもありますので、是非そういうのも活用してもらいたいなと思います。さっき言ってくれた事業者の人たちも、そういうものに今後、参加してくれるような仕組みができたらいいなと思いました。

今、町の活動の事が出たんですけど、天領祭りにも、加計学園の学生さんたちは毎年、参加して下さっていると伺っているんですが。ゼミとか、サークルとか、ボランティア活動の中で、学校外の色んな活動に自分が参加をしたことがある人はどのくらいいらっしゃいますか。(挙手)半分か40%くらいですか。かけ猫の皆さんはあんまり外にはでていない感じかな。なるほど。生命科学科は勿論、猫も犬もウサギとかも皆、得意ですよ。今、40%くらいがすでに参加したことがあると言ってくさいましたし、今日来てくれていますが、現在の倉敷小町、芸科大の学生さんで、天領祭りの時に応募してくれて、頑張ってくれて有難いと思っています。色々な面でまちづくりに参加をしてくれていると思います。なぜ、かけ猫活動の皆さんに言ったかということ、地域の小学校で、多くのところはウサギを飼っています、学校の教育活動の一環として。そのウサギに餌をやったりと

か、ウサギの宿舎を掃除したりして、動物を愛護する気持ちを育てようということやっ
ているんですけど、今のところ、子どもと学校の一部の先生、それも専門家の先生であ
るとは限りません。ゼミのこととかになるのか、自分の活動でそういうことができるのか
わかりませんが、地域の小学校とかで、ウサギの飼育とかの時に少しアドバイスをしてく
れたりとかということ、学生の皆さんのほうがよく知っているんで、教えてくれたりす
ると子供たちや学校の先生たちもすごく参考になるのじゃないかと思うし。

デザイン学科とか、メディア学科の皆さんがすでに市とも一緒に色んなことをしてくだ
さったりしているので、先ほどのようにこれからの色々な可能性のことも言ってくださ
ったんですが、自分が今、専門として勉強している科目とかが、何か町の中で、何かの視
点で役立つというか、皆さんがずっと倉敷市に住まれるかどうかわからないと思いますが、
私にとっては皆さんが倉敷で少なくとも4年間なり、何年間勉強してくれるということは、
倉敷にとって大変ありがたいことだし、皆さんがこの倉敷で、それこそさっきの記念日
の聖地ではないですけども、倉敷という想いをもって、これから香川だったり、福岡だ
ったり色んなところに帰る人もいますけれども、倉敷にきて勉強してよかったと、ま
たそのうち記念日とか、何かの時に倉敷に来てみたいとか、倉敷は良かったよと、是非言
っていただけたらと思うんです。そのためにも学校の勉強は勿論一番ですけど、プラス、
町にでたり、地元の人たち子どもたちと交流したりする機会を、自分のゼミとか課外活
動の中でやってもらえると、地元の人たちはうれしく喜ぶと思うし、皆さんにとってもこれ
から社会に出ていく中で役に立つと思います。これからの学生生活の中で、色んなこと
を見つけ出していただければと思っています。2年・3年・4年とこれから学校にいらっ
しゃる時間は違うかと思いますが、私たちは、倉敷市の地域の皆さんは、皆さんに大き
な期待を持っているということ、それから何か地域の人たちと一緒にやりたいというこ
があったら、学校のほうでも、学長先生とか、副学長先生も言われておりましたが、地域
と色んな活動する時の窓口をもうちょっとはっきり。(挙手：学外連携センター)

芸科大・学外連携センター

インターンシップ、それから地域との連携を今年から、学外連携センターという所で受
け持っております。教務課の隣のカウンターの所ですので、皆さんドンドン外に出て行っ
て、地域の方と触れ合っていただきたいと思います。市役所でもインターンシップをたく
さん受け入れていただくという準備をしてくださっていますので、どうぞ手を挙げて積極
的に外に出ていきましょう。ご協力させていただきますので、よろしくをお願いします。

市長

教務課の隣の所ですね。是非、市役所とか市内の企業のインターンシップとか、地域の
活動とか、色々自分が考え付くこと、できることで活動を頑張っていたきたいと思いま
す。これからの皆さんの活動に心からエールを送りまして、今日の皆さんとの意見交換と
させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。